

第1回 養父市教育（施設）のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和7年6月27日（金）午後7時00分～
場 所 養父公民館2階 A研修室

1 開 会

午後7時、高木課長により開会。

出席者の氏名

市 長 大林 賢一

委 員 小西 哲也委員長、中島 邦子副委員長、村崎 富美子委員、
安東 博之委員、西山 佳代子委員、宿南 宏行委員、
田邊 賢吉委員、久保田 史哉委員、田中 政博委員、
世登 創太郎委員、岸本 純委員、中野 宗一郎委員、
原 真理委員

事 務 局 米田 規子教育長、小井塚理事兼教育部長、
西山教育部次長兼こども学び課長、高木教育課長、
中尾学校教育担当課長、中西教育課主幹、圓山教育課主査、
白山教育課主事

2 委嘱状交付

資料1に基づき、教育のあり方検討委員会の設置規則について説明後、
小西委員が代表して、市長より委嘱状を交付される。

3 市長あいさつ

こんばんは。日ごろは養父市の教育行政におきまして、多大なるご理解
とご協力をいただいていること、心より感謝申し上げます。

子どもの数は70万人を切ったと発表されましたが、養父市の令和7年度
の出生数は、現時点で57人です。昨年度の婚姻数が29組ということを考え
ましたら、令和7年度は60数名になるのではないかと考えられます。こ
のような状況の中、しっかりとした未来に向かって教育のあり方を考えて
いかなければならないと思います。また、色々な過渡期が来ています。令
和10年度に向けた部活動の地域展開という新たな動きもあります。その中
で、ただ単に学校を統合するという形ではなく、これからの子どもたちが
夢を持つこと、夢を語れる教育の環境づくりが大切だと思います。ここに

おられる皆様の知恵をお借りして、養父市のこれからの教育のあり方をしっかりと吟味していただき、ご審議していただければと思います。お忙しい中と思いますが、なにとぞよろしくお願いいたします。皆様のご協力に感謝の意を表し、挨拶とさせていただきます。

4 委員紹介（自己紹介）

5 委員長・副委員長の選任

委員長に小西哲也委員、副委員長に中島邦子委員を選任。

6 委員長・副委員長就任あいさつ

小西委員長 …中国道から北の兵庫県の自治体には、かなり関わってきている。2,000年代から「学校を核としたまちづくり」「地域とともにある学校」とよく言われているが、学校を核にしないと地域がダメになるということで言われてきた。しかし、それも難しいくらい子どもの数が少なくなっている。どうか、皆様の積極的なご意見でご協力をいただきたい。

中島副委員長…教育畑だったが、この4年間はボランティアや選挙管理委員を務め、これまでにない業務をさせていただいた。この会議においても、皆さんと協議していきたいと思う。

7 諮問

大林市長が諮問書を読み上げた。

8 議事

進行：小西委員長（以下、委員長）

(1) 審議事項

会議等の公開について

(説明)

事務局 …原則公開とし、内容によっては非公開とする。会議の議事録は、発言した委員の名前は伏せて公開とさせていただきたいが、どうか。

(審議)

反対意見なし。

(2) 報告事項

ア 養父市の教育について

イ 養父市の児童生徒数の見通しについて

事務局 …資料4-1及び「養父市教育のあり方検討委員会」答申に基づく実施計画についての資料に基づき説明。

(質問・意見)

委員長 …質問や意見はあるか。委員Aは、前回のあり方検討委員会にも委員として出席されていたが、何か意見はあるか。

委員 …前回の会議は、養父市の保護者世代の委員が少なく、いつも会議が終わるとその3人ほどで意見交換していた。自分の子どもがこども園に通っていた時は3名の園児しかおらず、統合するときに関わらせていただいた。関宮学園に変わるときも関わらせていただいた。地域の思いから始まったことであったが、保護者の声が出てくると話が早く進んでいったように思う。保護者から出る反対意見を、どのように聞いて進めていくのが一番いいのか悩んだ。その時に制服を変えたらよかったが、反対意見があって進められなかった。反対意見をすべて聞いていると何も変えられない。前市長や米田教育長には、「養父市内の全中学校を同じ制服にできないか」と話をさせていただいたことがある。ネクタイの色やエンブレムだけが学校によって異なれば、いずれ統合した時にその一部を変えるだけで済むのではないだろうか。このように、先を見据えて進めていきたい。制服がハード面と言えるかわからないが、すぐに動けることの1つではないかと思っている。

関宮学園のPTA会長を4回させていただいている。「子どもたちがこれからという時期にどうにかしたい」という思いがあり、ここで色々な話し合いをしていきたいと思って参加している。

委員長 …学舎制にできない理由は何か。

事務局 …学舎制にすると、元々の学校に残る1年生から4年生の人数がとても少なくなる。少ない人数がさらに少なくなり、学校が成立するのだろうかという意見がある。4年生がリーダーとなるが、手本がないなかでリーダーシップを育てられるのかと危惧する意見もあり、もっともな意見だと思った。なおかつ、職員数が減ることになる。校長先生がおらず、教頭先生は市で雇用して配置することになる。1～4年生が1学級ずつない場合もあり、少ない教員数で一つの学校として本当に維持できるのか、少ない子どもたちで学校の掃除などができるのかという意見もあった。宿南地区にお話した折には、ぜひとも地域とともにある学校として、一緒になって掃除に入っていたとか、学びについて地域の方に教えていただくことはどうかとお話した。イメージをしていただくのはなかなか難しく、私たちも100%のイメージができていない部分があるだろう。「5、6年生が大きな集団の中で学ぶなら、1年生から行けば社会性が身につくのでは」というご意見があり、これももっともな意見だと思う。

前回のあり方検討委員会では、地域に学校を残すことが前提だったので1～4年生は地域の学校に残すと提案したが、地域や保護者の方との話を通していくつものハードルがあると感じた。

ウ 養父市のこども園・保育所をめぐる状況について

事務局 …資料に6-1、資料6-2に沿って説明。

エ 養父市の小・中・義務教育学校をめぐる状況について

事務局 …資料5-1に沿って説明。

オ 学校施設等長寿命化計画と学校施設の実態について

事務局 …資料7、資料8に沿って説明。

(質問・意見)

委員長 …資料7裏面に「本市の財政状況は厳しくなることが予測される」とあるが、どれくらい厳しいのか具体的に聞きたい。

事務局 …資料4-3における令和7年度出生数見込みの状況について、令和6年度は88人である。妊婦さん1人の転入があり

89人だが、実際の養父市の出生数は88人。令和7年度の数は6月17日時点の母子手帳交付枚数を基にした数字で、1月上旬ごろまで確定しているが、1月上旬以降の1か月程度で、どのくらい増えるか。旧町ごとに分けても令和6年度は88人と、今年度と大差ない数字であった。令和5年度は101人、令和4年度は98人と100人程度で続いてきたが、対前年度の8割前後の出生数で推移してきている状況。市では、若い職員を中心としたプロジェクトチームを立ち上げて、逆転の方向に持っていくための対策の検討に入っている。

委員長の質問については、資料「令和7年度予算参考資料」に沿って説明する。養父市の主な財源は、皆様からいただく市税と国からの地方交付税で半分を占めている。養父市は一般会計で約200億円の当初予算を持つ。こういった収入で賄うかは、歳入財源一覧で示しているが、23億7千万円程度あった市税が23億円を切る見込みとなっている。また、依存財源と呼ばれる頼りにしている地方交付税は、今年度の見込みが88億9千万円。財政の入ってくるお金が減りつつある。つまり、出ていくお金についても考えていくべき状況にあるということ。当然ながら、市が大きな事業をするには借金をする必要がある。令和5年の地方債、いわゆる、市の借金の残高は218億2,009万円。市民一人あたり100万円の借金を抱えている状況と言える。借金ばかりでなく貯金もしている。令和5年度の貯金残高については150億5,000万円。市民一人あたり69万円持つ状況。貯金を取り崩しつつ、借金もしながら運営している。家計に例えると日々の財布のやりくりが非常に厳しい状況であることは間違いない。

これらの市の財政状況を見るために国が示した指標がいくつかある。まず、市が独自でどれだけのお金を賄えるかを示す「財政力指数」は見込み値0.254で、県下でも最低レベルの数値。多いところでは1を超えるが、そうなると国は地方交付税を交付しない。次に、「経常収支比率」が99.9%。これは経常的経費である人件費、子育て支援や生活困窮者への支援・社会保障関係費といった扶助費、借金返済のための公債費といったもののことだが、80%を超えると財政の弾力性が乏しくなると言われる。つまりは、100%に近づくほど自由に使えるお金がないということで、貯金の取崩しや借金をしたり、ふるさと納税という収入に頼ったりすることになる。

令和6年度中にいただいたふるさと納税額は、3億円であった。

これらのことを念頭に置き、資料「令和6年度養父市財政計画の概要」を確認いただきたい。市の財政担当が今後10年間を見据えて、毎年度立てる計画である。突発的な事由もあり、絶えず財政状況は変化するので、毎年度見直しを行っている。貯金の取崩しや借金をすることで200億円という予算規模を維持してきており、この数年間は黒字が続いている。黒字となった部分は翌年度に繰り越しや貯金をすることで運営を行っている。しかし、財政担当の見直しによると、人口減少や税収が減少するなかで、この予算規模が今後も続いていくと、令和14年度に赤字に転落するという見込みを立てている。大規模事業を抱えているため、この見込みも令和12年度に前倒しになるとも予測されている。今のサービスを維持するためには、出ていくお金を減らすのか収入を増やす努力を続けるのかの判断をする取組が必要である。これが現在の養父市の財政状況である。

カ 養父市における「望ましい」学校の姿について
事務局 …資料5-3に沿って説明。

(質問・意見)

委員 …小学校で概ね4km以内ということは片道2km以内ということだろうが、自宅が小学校から約2kmの場所にあり、子どもは毎日頑張って歩いている。基準は、公民館から学校までが2kmということ間違いはないか。

事務局 …各地区内でも違いがあるので、公民館を基準としている。

委員 …非常に暑い夏場でも、重たいランドセルを背負って歩いている。このようにあと少しでスクールバスが乗れるような瀬戸際にある地域は、夏だけ臨時でスクールバスを出してもらえないかという意見が保護者から出ている。何か手立てはないだろうかという希望を伝えたい。

事務局 …希望として聞かせていただく。

委員 …現状、一番遠い地区はどれくらいなのか。

事務局 …広谷校区の十二所と上野。上野は保護者が送迎することが多い。次に高柳校区の下八木。養父市の基準で2キロとしているが他の自治体では、3 kmを基準にしているところなど様々である。

9 その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局 …本日を含めて5回の会議を開催し、あとの4回は8月から11月の各月に1回程度行い、12月に答申する予定。詳しい日程については、委員長と調整しながらお知らせしたい。

(2) 質疑応答・意見交換

委員 …事務局からの説明を聞いていると、財政が厳しいなかで進めていけないといけなと分かった。財政的には、統廃合をしたほうが良いと考えるのか。

事務局 …養父市の人口は2万人を切った状況にある。令和2年度国勢調査の結果によると、養父市の平均寿命は男性で81歳、女性で88歳。これらを元にするると、20年後には今の61歳の男性と68歳の女性がおられるのだろう。こうしたことを考えると財政力はどんどん弱まっていき、入ってくるお金も減っていく。しかし、面積だけは変わらない。この広い面積を少ない人口で維持していかなければいけない。どのような仕組みでこの面積を維持していくのかの検討も必要になる。自動運転やDXという新たなデジタルの力を活用した取り組みを行ってきているが、この減少に耐えうるものになるにはまだまだ時間がかかりそうだと思う。よって、財政の部分においてどうしていくかは、皆さんと話していかないといけない。市長も同じ考えである。今回お集まりいただいた皆さんには、少なくなってきた子どもに対して、私共がどう投資していくかについても考えていただきたい。

委員長 …例えば、学校を減らせば財政は楽になるのか。ズバリお話しただけならと思う。

事務局 …「例えば」で申し上げる。現在の学校建築の資材や人件費が高騰しており一概には申し上げにくいですが、令和5年度の1坪あたりの建築単価は130万円から140万円程度、さらに人件費が高騰しているので現在は150万円程度になっているだろう。養父市でも、学校を1校建設すると40億から50億円はかかると試算をしている。一度手をかけて投資したものに、また数年後に手をかけるということは避けたいと思っている。今後話し合いをしていくなかで万が一「統合」となれば、20年から30年後をも見越した学校づくりをしなければいけないと考えている。それだけ養父市の財政力がないということ。一度使ってしまった貯金はなかなか元には戻らないのが現状である。学校を統合したからといっても楽になるとうわけではなく、他のことにもお金がかかっている。

委員長 …次回以降に話し合いが進んでいくと思うが、気になることがあればこの際にお話しいただきたい。

委員 …ふるさと納税には、皆さんが期待されているだろう。他府県から養父市に納税していただき、教育に充当される割合はどれくらいなのか。

事務局 …ふるさと納税は教育にも充当されている。それがどれくらいの割合かについては、手元に資料を持っておらずお答えできない。先ほどの資料「令和7年度予算参考資料」の10ページに「元気な養父づくり応援基金」とあるが、これがふるさと納税の貯金である。ふるさと納税は、保育料の無償化や給食費の減免、大学生の奨学金、高校生の通学費補助といった市の独自事業に充てている。

委員 …出生数を増やすために、これまで何をしてきたか。

事務局 …妊娠を望まれる方への支援として、不妊治療の助成を続けている。県下で養父市しかもっていない特定不妊治療という制度、つまり妊娠を望まれる夫婦に対する不妊治療の助成を行ってきた。妊娠確率を高めるための保健指導も行っている。他には、子どもを持つ家庭が2人目や3人目と繋がるように経済的支援、保育料無償化、給食費の減免、学童クラブの受

け入れを行い、現在は待機児童がないという状況にある。

委員 …効果は出ているのか。

事務局 …前段として、婚姻数の減少が関係している。令和6年度の婚姻数の届け出は29組。圧倒的に減ってきている。いかに婚姻に結び付けるかだと思う。社会の情勢の変化で多様性が重視されてきたなかで、必ずしも子どもを持たないという考えの方も増えてきている。40年前程前から夫婦で子どもを持たない「DINKS」と呼ばれる方も増えていた。やはり、長い年月をかけてこのような状況になっていると言える。

委員長 …やはり出生数が最大の課題。イーロン・マスクが「いずれ日本は滅亡する」と言うが、私たちはそこをなんとかしないといけないと考えるのではなく、どうやって人を呼び込むかを考え、住みやすい街を作っていくかといけない。市長部局でも考えられているだろうが、そこに教育がどのようにして関わっていくかである。養父市の街を盛り上げ、今はいない将来の子どもたちへどんな養父市を残していくかを考えていく必要がある。いずれ借金をしてでも、養父市を残していくためには適正規模・適正配置を考えざるをえない状況にあると思う。私たちは、「学校を統合するということは街を作り直す」という気持ちで乗り切っていくべきだと思う。市長部局が人口減少に耐える施策を打つならば、教育委員会も同じ。単に学校を統廃合するのではなく、人口減少に耐える教育をどうするかを考えることが、一番大事になってくる。

前回のあり方検討委員会での市長への答申は、「未来の養父市を支える子どもたちを育てるために、大人がどう関わっていくか」を中心に作ってきた。私は、ここに市長部局の職員がいてもいいのではないかと思っている。ぜひ、まちづくりを担当する職員をこの場へお誘いいただければと思う。本当に厳しいこの状況を乗り切るために、学校の統廃合と適正配置を通してどう考えていくか、もう一度肝に銘じて次回に挑みたい。

事務局 …私は市長部局の理事で立場を持つ。したがって、教育委員会の立場を持ちながら、市長部局のまちづくりに関しても権限

を付与されていることをご理解いただければと思う。

事務局 …次回に向けて分かる資料や揃えてほしいという資料があれば、事務局として準備していきたい。

とても難しい課題に対して、私たちは話し合いをしていこうとしている。ここにお集まりいただいている委員の皆さんは、学校運営協議会にも籍を置いておられる方が多い。ぜひとも委員の使命として、この話題についても共有していただきたい。今日は資料説明の場とさせていただき、次回はぜひとも意見交換を行いたい。

委員…改修計画の資料を見たが、先のことまでたくさんの計画がされていて、LED化や長寿命化で各学校に費用がかけられていくことが分かった。財政難であるなかで今後の計画を早く決めることができれば、現在の修繕計画も変更でき、お金の使い方が有効になるのではないかと思う。かといって、焦りすぎて先に統合だけを決めて、まちづくりのことを考えないのも良くない。日本全国の出生率が減るなかで、財政難で課題を抱える自治体は多いだろう。総合的に考えないといけないと思った。

委員…市として、今後の少子化に向けてどう考えているのかわかるような資料があれば、並行して考えていくために活用できるかもしれない。次回に向けて用意していただければと思う。

委員…教育長のお話で、社会性を育むことがキーワードとあったときに、あまりにも過小規模である学校は統合を避けられないのではないかと考える。今日提示していただいた資料8を見ると、旧町単位で統合が進んでいる地域とそうでない地域があり、八鹿青溪中学校区内に老朽化した施設も含めて、小学校とこども園・保育所が点在していることが分かる。養父市民としても、統合を全く避けるということはできないのではないかと考えている。出生数が60名程度となるなかで、学校をすべて残して、地域の魅力や特色ある学校づくりをすることも限界がある。統合を視野に入れつつ学校をどう存続させていくかについて、議論を進めていけたらと思った。建屋小学校では、魅力ある学校づくりを進めていくなかで、校区外から20数名の子どもたちが通ってくる状況にあるが、残念ながらそれは市内の子ど

もの異動であって、市外からの子どもたちの通学には至っていない。いかに存続させていくかということにおいて、教育関係者は力を尽くし、市長部局は統合を視野に入れていくべきだろう。この会議は、かなり深刻な話をしていく場だと思っている。

委員長…この養父市を背負っていくのは我々でなく、子どもの世代であることは間違いない。子どもたちが大学を卒業した後は「養父市は田舎だから戻らない」というのがこれまでのパターン。まちづくりは人がつながるといふこと。まちと学校を一緒に作っていかないと終わりだという覚悟を持ってやっていくべきだと思う。

10 閉 会

午後9時、中島副委員長により閉会。